

幼児理解に基づいた評価について

参考：幼児理解に基づいた評価（文部科学省 平成31年3月）

保育所における自己評価ガイドライン（厚生労働省 令和2年3月）

主催 宮城県教育委員会



保育における評価とは

幼稚園教育要領解説

「評価は、幼児の発達の理解と教師の指導の改善という
両面から行うことが大切である。」



保育における評価とは

幼稚園の保育

- ①幼児の姿から、ねらいと内容を設定する。
- ②ねらいと内容に基づいて環境を構成する。
- ③幼児が環境に関わって活動を展開する。
- ④活動を通して幼児が発達に必要な経験を得ていくような適切な援助を行う。



保育における評価とは

実際に幼児が生活する姿から

- 保育者の関わり方は適切であったか。
- 環境の構成はふさわしいものであったか。
- あらかじめ保育者が設定した保育の具体的なねらいや内容は妥当なものであったか。



幼児理解に基づいた評価の実施

触れ合いを通しての理解

- 心に届く触れ合いを
- 気持ちを受け止める
- 触れ合いを楽しむ
- 幼児同士の関わりから学ぶ



幼児理解に基づいた評価の実施

保育の展開と記録

- 記録の役割と重要性
 - ・ 一人一人の理解と記録
 - ・ 保育の過程と記録



幼児理解に基づいた評価の実施

保育の展開と記録

- 記録の工夫
 - ・ エピソードを記録する
 - ・ 週案，日案の用紙を使って
 - ・ 個人票に視点の欄を設けて



幼児理解に基づいた評価の実施

保育の展開と記録

- 記録から何を読み取るか
 - ・ 個々の幼児の生活の変化
 - ・ 幼児の姿を生み出した状況



幼児理解に基づいた評価の実施

保育の展開と記録

- 保育者自身の関わり



幼児理解に基づいた評価の実施

保育の多面的な理解

- 様々な学び合いの場を活用する。
- 日常の中で幼児の姿について語り合う。
- 保育を見合う。
- 記録や資料を活用して見方を広げる。



幼児理解に基づいた評価の実施

家庭からの情報

- 信頼関係を築きながら
- 幼児の見える様々な面を受入れる。
- 情報交換のための方法を工夫する。



幼児理解に基づいた評価について

参考：幼児理解に基づいた評価（文部科学省 平成31年3月）

保育所における自己評価ガイドライン（厚生労働省 令和2年3月）

主催 宮城県教育委員会

